

Vol.76

Vol.76 (2018年秋号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM事例・知識	3
Activities / 支部活動	10
PM Calendar / PMカレンダー	18
Fact Database / データベース	19
Editor's Note / 編集後記	23



Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆【部会紹介シリーズ】その14 『IT研究会』 3
IT研究会 代表 橘田 徹
- ◆【部会紹介シリーズ】その15 『ポートフォリオ／プログラム研究会』 5
ポートフォリオ／プログラム研究会 代表 渡辺 敏之
- ◆【部会紹介シリーズ】その16 『PMタレントコンピテンシー研究会』 7
PMタレントコンピテンシー研究会 代表 塩田 宏治
- ◆【部会紹介シリーズ】その17 『関西ブランチ 運営委員会』 8
関西ブランチ 運営委員会 代表 杉原 秀保

Activities / 支部活動

- ◆PMI日本フォーラム2018開催結果報告 10
PMI日本支部 事務局 加野 治房
- ◆PMI Japan Festa 2018のご案内 13
- ◆日本支部創立20周年記念誌の制作について 15
PMI日本支部 事務局

PM Calendar / PMカレンダー 18

- PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 19

Editor's Note / 編集後記 23

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

【部会紹介シリーズ】 その14

■ IT研究会

IT研究会 代表 橋田 徹

■ はじめに

IT研究会は、PMI日本支部の部会としては、2000年に発足し、最も古い研究会の一つです。

IT業界でのプロジェクトマネジメントに関するプロフェッショナルリズムを高めるため、ベスト・プラクティスを研究し、メンバーの研鑽を図るとともに情報共有・交換を行うことを目的として活動しております。そして、研究成果の展開を行い、IT業界のPM育成を通して、社会に貢献するビジョンを掲げております。

■ これまでの活動と研究成果

2000年に発足したIT研究会は、当初、プロジェクトマネ

ジメントの実務で使用可能な各種テンプレート作成やPM手法研究を中心に活動をしてまいりました。その後、それらを発展させ、プロジェクト現場で役立つようなHints&Tips集をまとめる活動や、当時新しい分野であったアジャイル研究などを行ってきました。

さらに、2014年からは、「人」に関する課題に取り組み、最近では、IT業界の最新動向を踏まえた、Hints&Tips集の再編を通して、ITプロジェクト全体を広く網羅したテーマで活動を行っております。

また、毎年7月に開催されるPMI日本フォーラムでも、成果がまとまったタイミングで、研究成果を発表しております(2006、2008、2009、2013、2014年)。

年度	研究テーマ	研究の概要	フォーラム発表
2000 2001 2002	標準WBSの作成	PMBOKをベースにIT分野における「WBSとその成果物」を検討	
2003 2004	PM初心者のためのプロジェクト計画	短期プロジェクトを初めて任された人向けのプロジェクト計画書サンプル作成	
2005	(研究会運営基盤整理)	(研究会活動方針再検討と活動基盤の構築)	
2006	ITプロジェクト・マネジメント Hints&Tips	若手のプロジェクト・マネージャが実際のITプロジェクトの現場で参照し、活用し共有することを目的としたHints&Tipsのまとめ	○
2007	ITプロジェクト見積り手法の研究	文献等を元に見積り手法の検討会を実施	
2008	ITプロジェクト・マネジメント Hints&Tips の拡張	特定シチュエーションにおけるHints&Tipsの追加整理、主にトラブル事例を題材とした	○
2009	PMとして幸せになるために	希望学(玄田有史、他)等を参考図書としてPMが幸せになる方法を議論	○
2010	アジャイルプロジェクト研究	ジム・ハイスミス著作の「アジャイルプロジェクトマネジメント」をベースに、PMBOKとの共通点や乖離点を中心にまとめた考察	
2011	アジャイルプロジェクト研究	前年度に引き続きアジャイルプロジェクトマネジメントについて探求と討議。専門学生を対象にPMに関する座談会を開催	
2012	アジャイルプロジェクト疑似体験	アジャイルプロジェクトを疑似体験することによりPMとしてどうあるべきか討議	
2013	PMBOKソフトウェア拡張版(公開草案)の調査・研究	Software Extension to the PMBOK Guide Fifth Edition (ExposureDraft)の調査	○
2014	人にフォーカスしたプロジェクトマネジメント	プロジェクト現場における人に関する問題への対応について、現状を踏まえた上でベストプラクティスを検討	○
2015	ITプロジェクトにおけるヒト系課題に関する検討	前年に継続して、ITプロジェクトにおけるヒト系の課題に対するベストプラクティスについて現場での事例等をもとに深耕	
2016 2017	若手プロジェクトマネージャー向けガイドの作成	2006年版Hints&Tipsを見直し2016,17版Hints&Tipsとして再構成	
2018	若手プロジェクトマネージャー向けガイドの作成 PMBOK第6版を活用したIT-PM座談会	2006年版Hints&Tipsを見直し2018版Hints&Tipsとして再構成 PMBOK第6版を章毎にディスカッションテーマとして議論	

■部会紹介シリーズ

■現在の活動と今後

「IT研究会」という名前からして、扱う範囲が広すぎて、活動テーマがぼやけてしまうと思われるかもしれませんが、逆にITプロジェクトに関してであれば、各自の取り組みたいものを自由に研究できる幅広さがあります。

参加メンバーは、主にIT企業で日々プロジェクトに従事しているので、毎月の月例会では、自身の仕事で経験したことや、日頃の疑問や成果を持ち込み、意見交換しております。また昨年からは、秋に発表されたPMBOK第6版を用い、毎月範囲を決めて読み込み、関連したテーマで座談会形式で意見交換をしております。そして最終的にそれらをHints&Tipsに整理していきます。

今後も引き続き、ITプロジェクトのベスト・プラクティスを研究して参ります。毎年の活動メインテーマはメンバー間で決めていきますが、ITに関する事なら何でも、自身の関心や興味をサブテーマとして活動もやりやすい雰囲気です。

Hints&Tips 例

Hints & Tips (抜粋) 目次

1. プロジェクト憲章を書こう
2. 顧客を知ろう
3. プロジェクトの成否は計画で大部分決まる
4. 要件定義未確定事項の棚卸し
5. スキルシートでいったい何が分かるのか？
6. プロジェクト委員からの報告
7. 定量的品質管理の実行
8. 成果が上がっていない人に、いかに接するか？
9. プロジェクトの休日出勤はだれが決める？
10. 傷ついたPMのカウンセリング

1. タイトル : プロジェクトの成否は計画時点ですでに大部分決まっている (No.040)

2. プロセス : 計画プロセス群

3. 知識エリア: プロジェクト統合マネジメント

4. 概要

プロジェクトの成否は、計画時点ですでに大部分決まっている。計画こそが最も重要である。詳細で綿密な計画作成にこそ全力で取り組むべきである。そしてステークホルダーにレビューと承認を得ることは、何より先にやるべき事である。

5. 本文 (問題提起と対応策 Hints)

プロジェクトの成否は、計画時点ですでに大部分決まっている。計画こそが最も重要である。詳細で綿密な計画作成にこそ全力で取り組むべきである。成功の可能性を高めるためには、計画時点であるゆる事態を想定し、リスクを洗い出す。失敗するリスクを明確にし、早めに可能な限り対策を立案すべきである。リスク情報をプロジェクトメンバーと共有し、リスク対策をステークホルダーにレビューしてもらうことで漏れていたリスクを洗い出し、より良いリスク対策を立てることができる。過去のプロジェクト経験者からのアドバイスは、同じ失敗を繰り返さない重要なヒントが含まれているかもしれない。プロジェクトは、公式なレビューと承認を得た上で実行開始すべきである。

プロジェクト開始の時点では、曖昧な部分やまだ未定な部分が多く計画を立案するのが難しいかもしれない。しかし、文書化することにより曖昧な部分や未定の部分を明確にすることが重要である。未定な部分は未定とした上でそれをいつどのような方法でだれが決定すべきかを計画する。

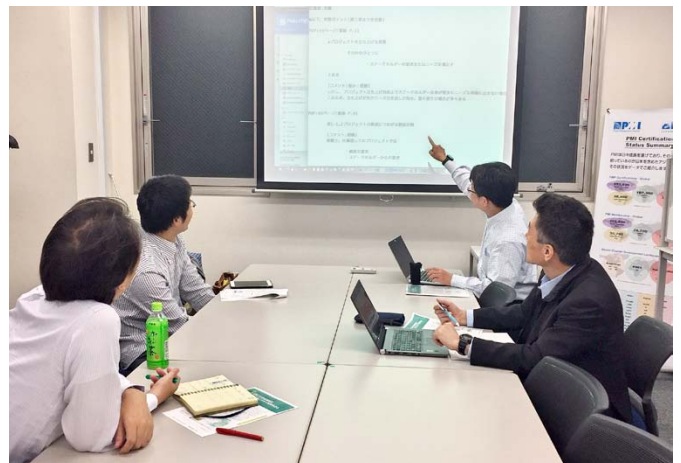
プロジェクト計画は、独りよがりの計画ではなく、過去実績に基づいた妥当な計画でなければならない。開発メンバーが新しくなれば、当然開発の効率は低下する。新規の分野なら高いリスクが伴う。スキルが不足していたら実現の可能性を疑うべきである。納期厳守だからと言って品質保証のプロセスを省略して良いはずはない。設計したものが本当に正しく、妥当なものか設計の時点で確認し是正できるような計画とすべきである。試験計画は、ものが出来てから考えるのではなく、設計時点で計画すべきである。試験が容易な作りとなれば後で苦労するだけである。それもこれもすべて最初のプロジェクト計画で立案すべき内容である。

■研究会の雰囲気

毎月の月例会を中心に活動しております。

ITという広いテーマでの活動なので、各自の興味に合わせた活動ができます。月例会でも厳しい成果物締切があるわけでもないので、比較的少人数でアットホーム、ゆったりとした雰囲気の中進めており、メンバーが話したい内容を持ち込み情報共有を行ってます。前述のPMBOKをベースとした座談会や、各自が受講したセミナーなどのフィードバック、各自の所属会社のPMに関する取り組み紹介など、またIT業界動向などテーマからは少し離れた話もします。

月例会の様子



■おわりに

ITプロジェクトマネジメントに関することであれば何でも取扱います。

研究会といっても身構えることなく、各自のレベル(割ける時間や経験、スキル)に応じた活動が可能です。

是非、IT研究会に興味を持っていただき、お気軽にご連絡をお願いいたします。

https://www.pmi-japan.org/session/study_club/it.php

■部会紹介シリーズ

【部会紹介シリーズ】 その15

■ポートフォリオ／プログラム研究会

ポートフォリオ／プログラム研究会 代表 渡辺 敏之

■はじめに

ポートフォリオ／プログラム研究会は、ポートフォリオ／プログラムマネジメント標準をベースとし、戦略実行への体系的アプローチについて、自主的な『研究・応用実践・情報発信・適用支援』活動を実施しています。発足以来十数年の歴史を持ち、40名を超す研究会に成長してきました。毎年活発に内外で活動しており、内部での活動の成果を講演やセミナー、ワークショップなどを通じて積極的に公開しています。

■活動の趣旨

テクノロジー・経済・社会情勢をはじめ、私たちがとりまく環境の変化はますます速くなっています。また、破壊的イノベーションの時代において社会課題・経営課題に取り組むには、戦略そのものに柔軟に対応する能力・マネジメント活動が重要となります。

より“しなやかな”戦略実現の処方箋として、本研究会で

はポートフォリオ／プログラムマネジメントを軸に、ノウハウや知見をまとめ『社会課題・経営課題を解決するPMの普及』を目的に活動しています。

■研究活動

ポートフォリオ／プログラムマネジメントをより深く理解するため、PfM/PgM標準に基づく体系的アプローチの研究や、他のPM標準、ビジネス・アナリシス、ベネフィット・マネジメント等との関係性について研究するとともに、応用・適用事例の収集を行っています。

また他団体との連携活動や、メンバー自身によるスタートアップ・所属企業での中期経営計画策定などへのPfM/PgMの応用実践活動を通し、幅広い領域での“経験に基づいた”PfM/PgM知見を獲得しています。

特にスタートアップでは、有志メンバーによるLLP（有限責任事業組合）を設立し、実践ベースでPfM/PgMの有用性

研究テーマ・マップ



■部会紹介シリーズ

を検証しています。

昨年はPMBOK®第6版、PfM/PgM標準第4版などの改訂プロセスに参加し、各標準の公開草案レビューアー・リストに当研究会メンバーが多数掲載されました。今年スタート予定の翻訳プロジェクトにも積極的に参加していく予定です。

毎年、フォーラムでは複数のテーマで講演をしています。今年3件の講演を実施しました。そして、その中の1件が名誉ある優秀発表に選出され、代表メンバーがPMI®本部の北米大会へ参加することになりました。

また、日本ではまだまだ取得者の少ないPfMP®、PgMP®の普及に向けて支援セミナーを開催するとともに、新しく改訂されたPfM/PgM標準第4版についても紹介するセミナーを開催しています。

■おわりに

PfM/PgMを分野・業界さらには職種・職位にかかわらず一般的なスキルとして捉え、「× something」で実践・活用・研究活動を行っています。PMBOK®だけではどうもうまく行かないとか、困っている方はいらっしゃいませんか？ プロジェクトの上位概念として説明されるプログラム・ポートフォリオのマネジメント手法を学んでみたい方はいらっしゃいませんか？ ここはそのような人たちが集う場です。ぜひ参加して、あなたの思いをぶつけてください。そして、当研究会



に“刺激”を与えていただき、私たちの「知見」や「気づき」を獲得してください。

ご参加をお待ちしております!!

https://www.pmi-japan.org/session/study_club/portfolio_management.php

■部会紹介シリーズ

【部会紹介シリーズ】 その16

■PM タレントコンピテンシー研究会

PM タレントコンピテンシー研究会 代表 塩田 宏治

プロジェクト・マネジャーは、知識やスキルを身につけるだけでは不十分であり、PMコンピテンシーを育成して初めてパフォーマンスを発揮することができます。当研究会では、「コンピテンシー入門」などの冊子を発刊し、ショートケース・ワークショップによるPMコンピテンシー育成トレーニング手法の確立と実践ワークショップの開催を行うことで、PMコンピテンシー概念の普及と育成を図ってきました。PMIフォーラムの発表でも2度優秀賞を受賞するなど、実績も豊富です。これに加えて、PMI本部が行っているグローバルなプロジェクトマネジメント・アンケート調査と同一の質問項目に日本独自の項目を加えたアンケート調査を実施し、プロジェクトマネジメントの普及、プロジェクト成功への要因分析、人材育成の課題等について、数値による分析と提言を行っています。

近年では、タレントトライアングルに見られるように、プロジェクトマネジメント人材に期待される役割が拡大および進化してきています。当研究会でもプログラム・マネジャーや戦略およびビジネス・マネジメントにおけるPMコンピテンシーとは何かなどについても、すでに研究・提言に取り組んでいます。

またPMIのPMコンピテンシーの枠組みであるPMCDF第3版（プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー・ディベロップメント・フレームワーク）のレビューアとしてメンバーが参加し、執筆活動に貢献しました。PMIより発刊された英語版の日本語訳を、鋭意作成中です。

当研究会は、PMコンピテンシーを軸に、真に貢献するプロジェクトマネジメント人材とは何か、そしてそのような人材をどのように育成するかについて、正面から取り組んでいます。さまざまな専門家を抱える当研究会では多くの刺激と学びの場があります。みなさまも、是非一度のぞいてみませんか？

https://www.pmi-japan.org/session/study_club/pmcdp.php



■部会紹介シリーズ

【部会紹介シリーズ】その17

■関西ブランチ 運営委員会

関西ブランチ 運営委員会 代表 杉原 秀保

■はじめに ～部会発足とこれまでの経緯～

関西ブランチはPMI日本支部初のブランチとして2009年12月に発足しました。運営委員会は関西ブランチの運営を担う委員会としてそれと同時に活動を開始しています。

主な役割はPMI日本支部事務局と関西で活動している研究会をつなぐ窓口機能やブランチ全般の施策、セミナー、ワークショップの企画、実施、PMI日本支部のWebサイトを通じた情報発信ですが、加えてソーシャルやアカデミックプロジェクトへのプロジェクトマネジメント普及、外部の団体・企業様への渉外活動などにより、関西地区のPMI日本支部会員へのサービス向上、一般のPM実践者への学びの場、PDU取得機会の提供など幅広く活動しています。

参加メンバーはIT、製造、医療などさまざまな業界の方が集まっておりPM、コンサルタント、ITエンジニア、PM企画、営業、管理職など多様な職種で構成されています。

年間活動計画、予算計画を策定し、月1回の定例運営委員会やPMI日本支部の部会である地域サービス委員会、セミナープログラムのほか事務局とも連携し、関西セミナー、あかねサロン（ワークショップ）さらにPMI日本フォーラムでの発表に向けてのリハーサルや年末の関西ブランチ成果発表会を企画・実施してきました

2017年は東京のセミナープログラムと合同で土曜セミナーの開催や関西の研究会発足10周年を記念したセミナーの開催など、さまざまなイベントや活動を行いました。今年は、関西地域の会員ニーズに応える形で関西セミナーを上期2回実施していますが、いずれも満席となる等、東京での月例セミナーと同様に、質の良いセミナーに対する需要の高さを示す結果となりました。

来年はブランチ発足10周年を迎えますので、記念セミナーをはじめ多様な会員ニーズに応えるセミナー開催などプロジェクトマネジメントの普及活動や情報発信などブランチイベントワーキング中心に進めていく予定です。

今後も大阪駅北側に位置する梅田グランフロント7Fのナ

レッジサロンや梅田阪急ビルオフィスタワー26Fを活動拠点として、運営委員会や各種セミナー等のイベントを実施致しますので、皆さんの温かいご支援を引き続き宜しくお願い致します。

■現在の活動内容

- 月1回、運営委員会を開催（第2金曜19:00～21:00に大阪梅田グランフロント7Fナレッジキャピタル）し、各種情報共有や課題、施策などの企画検討を実施。
- 運営委員会では運営委員や研究会代表の全般的連絡事項の確認と各担当による企画検討を実施。
- 電子メーリングリスト、サイボウズなどのツールを活用し、コミュニケーションの効率的を進め、また外部団体とも連携しPMI内外に積極的な情報発信を行う。
- 運営委員会の内部組織として以下4つのワーキンググループで運営しています。

①WG1：オペレーションWG

- ・ブランチ運営の企画や支援
- ・グループウェアやメーリングリストの維持・メンテ

②WG2：地域 ソーシャル・アカデミックスポンサー支援WG

- ・地域（近畿）のソーシャル・アカデミックスポンサーへの支援
- ・新規スポンサー開拓

③WG3：関西ブランチ10周年記念セミナー企画WG

- ・セミナー内容の検討
- ・会場手配、開催内容の発信

④WG4：ブランチイベントWG

- ・ブランチのイベント企画と支援
- ・成果発表会、フリーセミナー、その他

■おわりに

PMI日本支部は世界に先がけてブランチモデルの適用支部となりましたが、第1号ブランチ（地区）として関西ブラン

■部会紹介シリーズ

チが設立され、その運営を担っているのが当運営委員会です。

関西 brunch の5つの研究会と共に関西地区におけるプロジェクトマネジメントの普及や学びの場、コミュニティの提供を進めています。

各種セミナー開催や研究成果発表会など brunch 運営や企画全般を担っていますが、さまざまな業界の方々との議論を通じて互いの価値観を交換する中で、フレンドリーな雰囲気

のもと忌憚りの無い意見交換ができるのが関西 brunch の特徴だと考えています。是非興味のある方は我々の活動にご参加いただき、また他の研究会との交流の中で互いに学びを深めていければと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

運営委員会の活動詳細や参加に関する案内は以下のリンク先をご覧ください。

<https://www.pmi-japan.org/session/cat379/kansai.php>



2017年12月 成果発表会の懇親会にて



2018年5月 関西土曜セミナー（元刑事によるコミュニケーションセミナー）



2018年フォーラムリハーサル後の集合写真



2018年フォーラムリハーサル発表の様子

Activities / 支部活動

■ PMI日本フォーラム2018（7月14日-15日）開催結果報告

PMI日本支部 事務局 加野 治房

去る7月14日(土)、15日(日)の二日間、東京神保町にある学術総合センターで「PMI日本フォーラム2018」を開催しました。

両日とも35度を超える猛暑の中、おかげ様で延べ1,500名にのぼる方々に参加いただき、盛況裡に閉幕しました。

ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

また、フォーラム開催にあたってご協力いただいたスポンサー企業の皆さま、当日の運営を支援して下さったボランティア・スタッフの皆さまに心からお礼申し上げます。

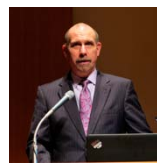


■ メイン・トラック

今年のテーマは「新しい潮流へのチャレンジ –境界を越えて–」。今まさに私たちが直面している新たな潮流の先頭を走れるよう、様々な境界の壁を破ってノウハウ、フレームワークや手法を提供する使命を果たすべく、国内外の12人のリーダーにご講演いただきました。



【7月14日(土)】



- ① PMI 会長：Mark A. Langley
「The Future of Project Management」



- ② Region9 Mentor：神庭弘年
「破壊的イノベーションとPMロールの変化」



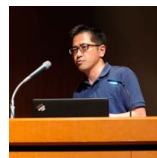
- ③ 株式会社 伊藤園 顧問：笹谷秀光氏
「ESG時代におけるSDGs活用による新たな競争戦略」



- ④ 株式会社 AND CREATE
代表取締役：清水久三子氏
「人生100年時代に求められる学び力とは？」



- ⑤ 豊田市長：太田稔彦氏
「持続可能な都市を目指す豊田市の取組み」



- ⑥ 楽天株式会社 執行役員
楽天技術研究所 代表：森正弥氏
「『個別化』時代に向けた楽天技術研究所の挑戦」



- ⑦ 株式会社 InStyle
代表取締役社長：鈴鹿久美子氏
「会う人すべてがあなたのファンになる『一流の魅せ方』」

Activities / 支部活動

■PMI日本フォーラム2018（7月14日-15日）開催結果報告

【7月15日(日)】



- ⑧慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授：白坂成功氏
「VUCA時代のマネジメント方法論」



- ⑨PMI's Director for Network Programs :
Stephen Townsend 氏
「Perspectives on Organizational Agility」



- ⑩ビジネスイノベーションハブ株式会社
代表取締役：白井和康氏
「ジョブ理論によるイノベーションプロセス
— 予測可能、再現可能、持続可能、拡大
可能なイノベーションプロジェクトの推進」



- ⑪株式会社 井之上パブリックリレーションズ
代表取締役会長兼CEO：井之上 喬氏
「ステークホルダーマネジメントを成功に
導く、プロジェクトマネージャーに求め
られるパブリック・リレーションズとは？」



- ⑫株式会社日経BP 日経 xTECH / 日経コン
ピュータ シニアエディター：田中淳氏
『「なぜプロジェクトは失敗するのか？」、
調査結果に見る1700プロジェクトの真実』

■分科会トラック

支部の部会活動や法人スポンサー・スタディ・グループ、フォーラム・スポンサー会社の講演である分科会トラック。今年も1部屋あたりの収容枠を拡大し講演時間も1時間として中身の濃い内容となりました。



■アカデミック・トラック

国内外の教育機関からの参加を得て、両日にわたって計6つのアカデミック・トラックを開催し、ワークショップやグループ討論が活発に展開されました。



■グローバル・トラック

昨年、4年ぶりに再開したグローバル・セッション。

日本フォーラムの知名度が上がったことで世界中から申し込みがあり、日本支部と同じく今年20周年を迎えたブラジルのサンパウロ支部のほか、オランダ、デンマーク、オーストラリアから総勢5名が登壇。海外動向に関心が高い聴講者で賑わいました。



■全国向け同時中継

昨秋のPMI Japan Festa 2017に続き、フォーラム2018では大講堂の12セッションを全国向けに同時中継を実施しました。180余名の方々にリアルタイムで受講いただきました。



■ボランティアの皆様

会場での運営は、今年も多くのボランティアの方々に支えていただきました。

Activities / 支部活動

■PMI日本フォーラム2018（7月14日-15日）開催結果報告

事前説明会への出席を含めて、週末の二日間本当にありがとうございました。



■スポンサーの皆様（敬称略）

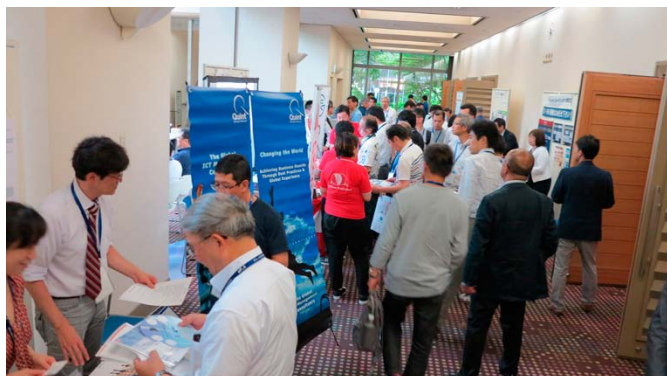
- (株)TRADECREATE
- 日本クイント(株)
- (株)アジャイルウエア
- (株)アイ・ティ・イノベーション
- (株)アイ・ラーニング
- 公立大学法人首都大学東京産業技術大学院大学

- (株)タリアセンコンサルティング
- ラーニング・ツリー・インターナショナル(株)
- プラネット(株)
- (株)NTTデータ
- (株)日立インフォメーションアカデミー
- (株)富士ゼロックス総合教育研究所
- (株)アイテック
- (株)エル・ティー・エス
- 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

.....
 来年の「PMI日本フォーラム2019」は、7月20日(土)・21日(日)に開催いたします。

皆さまと共に、さらに充実したものを目指して進めてまいります。

これからも、どうぞよろしくお願いたします。



展示ブース



協賛社名看板



プログラム冊子



ランチセッション 働き方改革とDevOps

■ PMI Japan Festa 2018のご案内

PMI Japan Festa 2018

新しい潮流へのチャレンジ
～激動する時代にプロジェクト・マネジャーはどんな変化を求められているか～



2018年10月13日(土)・14日(日)

2018年10月13日(土)、14日(日)の2日間にわたり、**PMI Japan Festa 2018**を横浜にて開催します。

激動する時代。今までにない新しいこと、新しい考え方、新しい手法、新しいアイデアをなぜ選択したのか、なぜそれに挑戦しようと考えたのか、どのように決断したのか。新しい選択へ至るまでの決断について、時代の一步先を進むリーダーをお招きしお話しいただきます。



- 開催日■ 2018年10月13日(土)・14日(日)
- 受付開始■ 9:30～(13日) 9:00～(14日)
- 講演■ 10:30～17:45(13日)
(ワークショップ並行) 9:30～16:30(14日)
- 交流会※■ 17:55～19:45(13日)

※交流会には何人かの講師も参加されます。講演内容や日ごろの実務で感じている問題を講師へ問いかけたり、PM同士でざっくばらんに話ができる良い機会です。初めての方も気軽にご参加ください

- 受講証明■ **最大10PDU**
(2日間合計) Leadership: 4.0 Strategic&Business Management: 5.0
ITC実践カポイント10時間分
- 定員■ 各日とも450人(申込み順)
- 申込方法■ PMI日本支部 トップページのバナー
「PMI Japan Festa2018」からどうぞ
- 主催■ PMI日本支部 セミナープログラム
- 場所■ 【講演会場】
慶應義塾大学日吉キャンパス
協生館2F 藤原洋記念ホール、多目的室
横浜市港北区日吉4-1-1
東急東横線、市営地下鉄 日吉駅 徒歩1分
【交流会会場】
慶應義塾大学日吉キャンパス
協生館1F HUB慶應日吉店

■参加費(税込)■

	PMI日本 支部会員	法人メンバー 社員	一般	受講証明
1日目のみ	13,000円 15,000円	18,000円 20,000円	28,000円 30,000円	5.0PDU
2日目のみ	13,000円 15,000円	18,000円 20,000円	28,000円 30,000円	5.0PDU
両日参加	24,000円 28,000円	34,000円 38,000円	54,000円 58,000円	10.0PDU
交流会	2,000円	2,000円	2,000円	—

上段の金額は、9月14日(金)15:00までに入金確認できた方への早割料金です。

◇同時中継システム(PDU受講証明書を発行)

講演の様子を全国向けにオンラインで同時中継します(ワークショップは対象外)。スマートフォンやタブレットでも聴講可能ですので、当日、会場にお越しになれない方は是非ご利用ください。

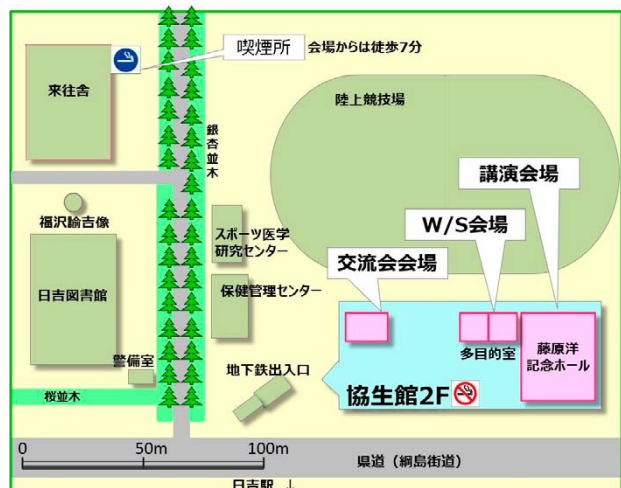
通信環境および視聴機器のセキュリティ状況や性能によっては、ご視聴いただけない場合がありますので、事前に視聴テストサイトをご確認の上でお申込みください。

◇ワークショップを並行実施(PDU受講証明書を発行)

PMI日本支部でアクティブに活動している研究会は30に上ります。当日は、その中の3つの研究会が主催するワークショップ(W/S)を開催します。

会場は講演会場に隣接した教室です。テーマに興味をお持ちの方はぜひこちらにご参加ください。

- ① ソーシャルPM研究会
「企業のソーシャル・スタートアップから学ぶ組織のアジリティ」
- ② 関西ランチ PM実践研究会
「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ」
- ③ PMO研究会
「変わらない組織に未来はない!～PMOの新潮流～」



■PMI Japan Festa 2018のご案内

PMI Japan Festa 2018のご案内



案内サイト



講演概要

■プログラム構成■

【10月13日（土）】

	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5
	10:30 - 11:30	11:45 - 12:45	14:15 - 15:15	15:30 - 16:30	16:45 - 17:45
講堂	 NPO横浜大学 山本 真己 様	 キヤノンITソリューションズ (株) 三上 裕子 様	 (株) steekstok 酒井 穰 様	 カブクリッジ・テクノロジー・パートナーズ (株) 榊巻 亮 様	 (株) morichi 森本 千賀子 様
	リーダーシップ「伝統的な教え、革新的な学び」	チアリーダー出身プロジェクトマネージャーの苦悩、頑張りすぎなくても続けられるように	PDCAをやめて、DLPで行こう！	会議が変わると働き方が変わる～メンバーの力を最大限に引き出すファシリテーションのツボ～	激動する時代に生き残るリーダーとは～オールラウンダーエージェントが秘訣を教えます～
多目的室3	 ワークショップ①： PMO研究会「変わらない組織に未来はない！～PMOの新潮流～」				

【10月14日（日）】

	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
	9:30 - 10:30	10:45 - 11:45	13:00 - 14:00	14:15 - 15:15	15:30 - 16:30
講堂	 JAMSS 有人宇宙システム (株) 山口 孝夫 様	 (株) ゴールドラット・コンサルティング・ジャパン 岸良 裕司 様/ 飛田 甲次郎 様	 日本アイ・ピー・エム (株) 溝渕 浩章 様	 (株) カルチャリア 奥山 由美子 様	 (株) 若松 齊藤 俊一 様/ 寺澤 善実 様
	世界最強のチーム、“次世代宇宙飛行士”に求められる資質とスキル	「月曜日が楽しいな会社になろう！」～ゆとりを創り、生産性を飛躍的に上げる働き方改革～	ビジネスの現場でのAI～Watsonの今とこれから～	働き方改革成功のカギは社員幸福度の向上	東京芝で“国酒”を造る！～100年の時を超えて復活『東京港醸造』～
多目的室3	 ワークショップ②： SPM研究会「企業のソーシャル・スタートアップから学ぶ組織のアジリティ」				
多目的室2	 ワークショップ③： PM実践研究会「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ」				

■ 日本支部創立20周年記念誌の制作について

～ 編集・制作PM (吉田謙一氏) に直撃インタビュー ～

PMI日本支部 事務局

7月14日に「一般社団法人PMI日本支部 創立20周年記念誌」が発刊され、同日に開催されたPMI日本フォーラム2018では参加者全員に贈呈されました。記念誌についてのアンケート結果も大変に好評で、お褒めの言葉も沢山いただきました。

20周年記念誌の企画段階から編集・制作にあたった事務局の吉田謙一氏に、記念誌制作の狙いや苦労話などについてお聞きしました。



— 20周年記念誌とはどのような内容ですか？

PMI日本支部が創立してから20年間の歩みと、将来の展望をまとめたものです。いわゆる「社史」にあたるものです。

第1章は編年で構成し、その年のトピックスともに活躍された方々に当時の状況や思いを語っていただきました。第2章は20周年記念プログラムの紹介、第3章ではアクティブメンバーへのアンケート結果と座談会により、プロジェクトマネジメントやプロジェクト・マネジャーがどう変わるか、将来の展望をまとめました。

— 周年記念誌は日本支部でも初めての取り組みだったそうですね？

10年前はPMI東京支部からPMI日本支部へ変わる激動の時期でもあり、リーマンショックも重なり10周年記念誌を

作ろうという雰囲気ではなかったのだと思います。更に10年経って活動が安定してきたということもありますが、草創期に活躍された方々が高齢となり、当時のことを語っていただけるのは今しかないという片江副会長の強い思いによって今回の記念誌作りがスタートしました。

— 記念誌を読まれた方からの反響はいかがでしたか？

PMI日本フォーラムの参加者に20周年記念誌をお配りし、後日のアンケートでご意見を伺いました。参加者の7割が目を通され、その98%の方々から良くできているとご評価をいただきました。

「20年という歩みと重みが良くわかった」、「過去の足跡が辿れたことで日本支部の活動がより理解しやすくなった」、「日本のプロジェクトマネジメントの広がりを理解できる」、「これからの10年で決意表明していることが良い」など、好意的なコメントが目につきました。

印象深く感じたのは、「自分のPM史と重ねて時代を振り返ることができた」、「私の社会人生活とほぼ同時代を過ごし、不思議な縁を感じた」というコメントで、ご自身の歩みと照らし合わせて読まれた方が何人かおられました。私も編集しながら同じように感じていました。共感しています。

そのほか「第1章は読み応えがあり歴史の重さを感じた」、「20年の歴史が分かりやすくまとまっている」、「構成が素晴らしい」などのご意見も多くいただきました。

— どんなチームで対応され、吉田さんはどのようなことを担当されたのですか？

編集長の片江副会長を筆頭に、事務局の豊田ちづるさんと吉田のほか、「10年後の」アンケートや座談会のリードをセミナープログラムの松本弘明さんと鬼束孝則さんをお願いしました。当初はボランティアの方々にも参加していただくことも考えましたが、事務局内の資料を参照する必要があるため事務局メンバー中心のチームで対応することになりました。

私はこのプロジェクト・マネジャー (PM) を担当させていただきました。片江さんの思いを聞き出す初期検討から、計画、制作会社の選定、進捗管理などのマネジメントのほか、

■日本支部創立20周年記念誌の制作について

誌面レイアウトや記事原稿作成、写真撮影、校正など必要なことは何でもやりました。

— 20周年記念誌のお仕事に関わったきっかけは何ですか？

私は4～5年前にポートフォリオ/プログラム研究会に参加したことがきっかけで、PMコミュニティ活性化委員会やミッション委員会からも声をかけていただき、今年1月からは縁があって事務局で仕事をさせていただくことになりました。この1年間は20周年記念プログラムのPMOの担当です。7つあるプロジェクトの一つが20周年記念誌で、他に人手もなく、出版プロセスに個人的に興味があったので私がPMを引き受けることにしました。

— どのような記念誌にしたいと思っていましたか？ そしてそのイメージ通りに出来上がりましたか？

最初に心がけたのは、発起人である片江さんから記念誌のイメージをお聞きし、なるべく忠実に構成することでした。豊田さんと一緒に何度もインタビューし、アイデアをまとめていきました。理解が一気に進んだのは、支部のアンニュアルレポート第1号の記事をもとに、2005年の見開きのサンプルページを私が試作した時でした。

記念誌や社史はせっかく作っても読まれないことが多いため、手にした読者に「読んでいただける」ようにしたいと強く思っていました。このため、オーソドックスな構成ではありませんでしたが、カラー印刷で、誌面レイアウトで大きな文字フォントを使用したり、写真や多用したり、工夫を行いました。

ただ、最も重要なことは執筆していただいた方々のコンテンツだったと思います。原稿を拝見して、歴代の会長や事務局長の草創期に苦労されたお話に圧倒されましたし、理事やボランティアの方々の思いにも胸打たれました。沢山いただいた祝辞にもドラマを感じました。出来上がった20周年記念誌は、私のイメージを超えたものになったと思います。

— 一番のプレッシャーは何でしたか？

一番のプレッシャーは「時間」でした。2月に検討開始、4月中旬から原稿執筆を依頼、6月末に校了と、短期決戦でした。その最中の5月前半に両親の介護のため私自身が出勤できない状態となってしまいました。5月後半から6月末まで何とか挽回しました。事務局内もPMI日本フォーラムの準備のため1年中で最も忙しい中、記事作成などで手伝っていただいたことをありがたく思っています。

— どのような発見がありましたか？

20年の年表を作るため多くの資料を参考にしました。PMI本部の過去の資料や、国内のプロジェクトマネジメント



の動向にも触れる機会がありました。PMI本部が1969年に設立されて間もなく日本国内でもプロジェクトマネジメントに興味をもつ方々が既に存在し、PMI本部とも親交があったことも初めて知りました。記念誌では前史となるため記事掲載には至りませんでした。日本のプロジェクトマネジメントの歴史を振り返り、将来を展望する場合には、PMI日本支部以外の方々の思いやご苦労も包含する必要性を感じました。

— 記念誌の編集・制作と「プロジェクトマネジメント」との関係はどうでしたか？

記念誌のような冊子の制作プロセスに携わるのは初めてであったので、図書館やネットで出版業界の用語や制作プロセスを勉強しました。WBS (Work Breakdown Structure) を作る上で、初稿、2校、3校など出版プロセスの用語や定義を埋め込むようにしました。台割(だいわり)という全体管理表も利用しました。初期段階で想定リスクと対策案を考え、後工程でリスクが顕在化しないように覚悟できたのは効果的だったと思います。

計画初期段階で、7月のフォーラムでは記念誌の印刷版は間に合わずPDF版を公表することを目標としていました。スケジュール遅延を挽回した後、印刷条件を緩和することでフォーラムに印刷版を間に合わせることが予算内で対応できることが分かり、提案させていただきました。これは計画どおりQCDを達成することより、本来の目的(ベネフィット)を優先するchange managementだったと言えるかもしれません。

— 制作会社との連携はどうでしたか？

制作会社のイデコさんとは支部のアンニュアルレポートでもお付き合いがあった関係でスムーズな連携ができたと思います。支部のチームの余力がないことに対し、校正支援を提案

■日本支部創立20周年記念誌の制作について

していただき、結果的にこれが大いに助かりました。プロの校正の緻密さにより文章の品質が確保でき、時間短縮を図ることができました。2週間の遅延が発生した場合も、制作スケジュールを変更してもらいました。遅れないようにするのが大変でしたが。

— 今後につなげたい取り組みは何かありますか？

個人的には、20周年記念出版の「タレント・トライアングル」のような出版の経験も踏まえて、出版プロセスとノウハウを日本支部の中に定着できるようにしたいと思っています。日本でのプロジェクトマネジメント普及には出版の要素がもっと必要だと思います。

— 出来上がった記念誌を手にしてどのように感じられますか？

72頁の薄い冊子ですが、ずっしりと重く感じます。PMI日本支部の発展を支えた方々と、皆さんの自分史の集積でもあるように感じます。

今後については、一人ですることではありませんが、第

3章の最後にある「20周年で終わらせない」という気持ちです。PMI日本支部は理事や会員の方々からなるボランティア活動によって成り立っています。会員の一人としても何ができるか考えていきたいと思っています。

— 「30周年記念誌」の編集担当者へひと言

10年先の記念誌ですね。10年間の活動が多すぎて記念誌としてまとめるのに苦労されることを祈っています。

— どのような人に読んでいただきたいですか？

PMI日本支部の会員になられた方はもちろん、プロジェクトマネジメントに興味を持たれる方に広く読んでいただきたいと思っています。

【お礼】

事務局と一緒に編集を担当していただいた豊田さんには、自ら手を上げて参加され、テキパキと仕事をこなしていただきました。よく気が回る方で随分と助けていただきました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中】

■ PMI日本支部関連セミナー

● アジャイルプロジェクトマネジメント基礎

- 日時：10月5日(金) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● ファシリテーション型リーダーシップ基礎

- 日時：10月30日(火) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● PgMP®資格取得セミナー（一緒に挑戦しよう！）2日間コースDay2～〔受付終了〕

- 日時：10月31日(水) 19:00～20:30
- 場所：PMI日本支部セミナールーム

● アジャイルプロジェクトスタートアップ入門～見積り・計画編～

- 日時：11月9日(金) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● アジャイル実践

- 日時：11月20日(火) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● アジャイルプロジェクト スタートアップ入門～ビジョニング編～

- 日時：10月19日(金) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● PMBOK®第6版対応セミナー

- 日時：10月27日(土) 9:30～18:50
28日(日) 9:30～17:40
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 14PDU、ITC実践力ポイント14時間分

● 関西ランチ主催「あかねサロン」～PM実践力向上への誘い～

- 日時：11月2日(金) 19:00～20:30
- 場所：梅田阪急ビルオフィスタワー26F

● リスク・マネジメント研究会セミナー

- 日時：11月17日(土) 10:00～17:30
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 6PDU、ITC実践力ポイント6時間分

● 全国10都市開催地域セミナー（無料）

テーマ：PMBOK®ガイド第6版／地域コミュニティ活性化事例

- 福岡市 8/25 終了／札幌市 9/8 終了／奈良県生駒市 9/15 終了／大阪市 9/22 終了／静岡市 9/29 終了
- ◆名古屋市 10/6(土)
- ◆神戸市 10/20(土)
- ◆金沢市 10/27(土)
- ◆仙台市 11/17(土)
- ◆広島市 11/23(金・祝)

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI Japan Festa 2018

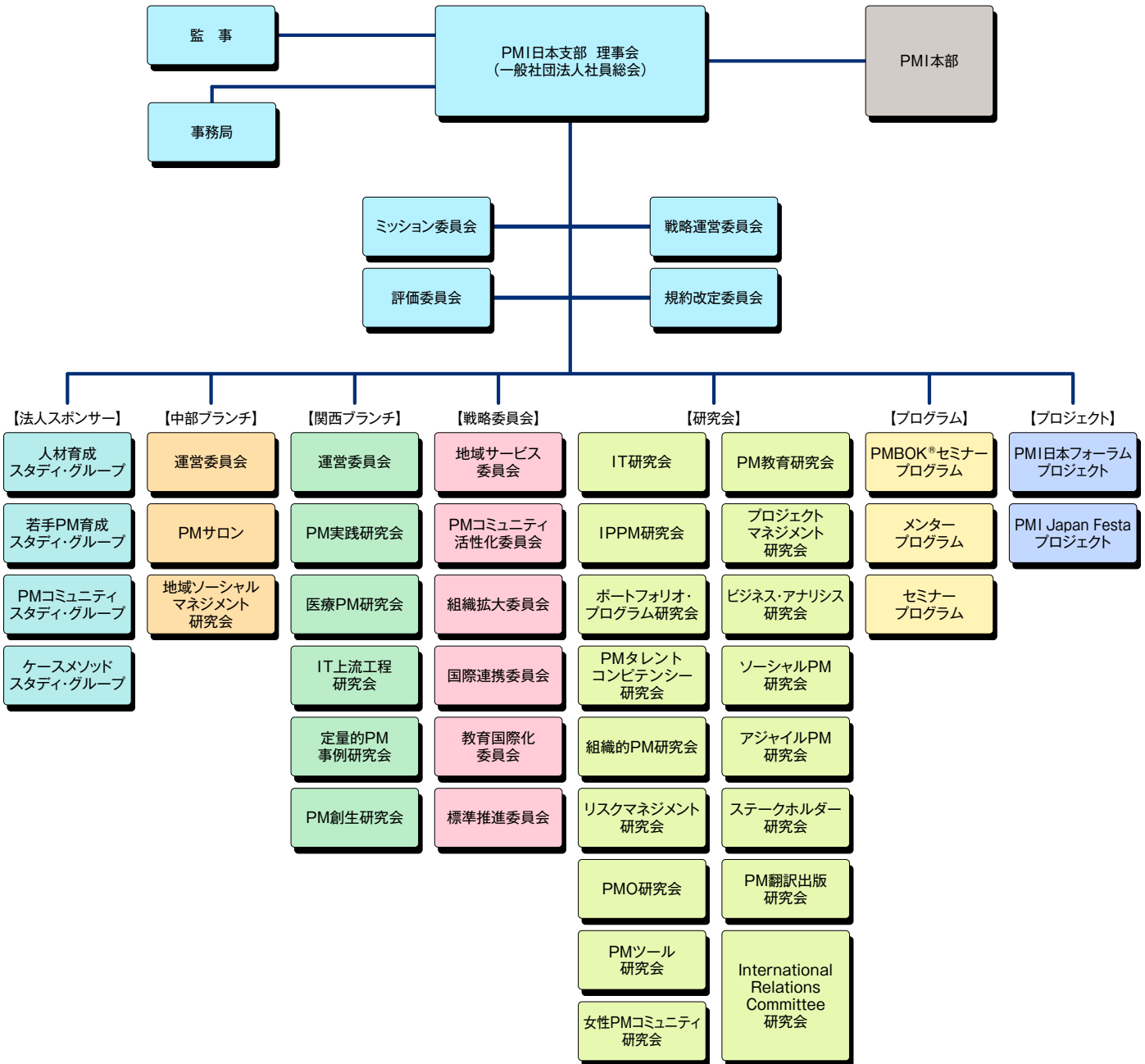
- 日時：2018年10月13日(土)・14日(日)
- 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス
- 同時中継システムによる受講可
- 10PDU、ITC実践力ポイント10時間分

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2018年9月現在)



■理事一覧 (2018年9月現在)

会長 ^(※)	: 奥澤 薫 (KOLABO)
副会長 (地域サービス委員会 [※])	: 浦田有佳里 (TIS株式会社)
副会長 ^(※)	: 片江有利 (株式会社システムコストマネジメント)
副会長 ^(※)	: 端山 毅 (株式会社NTTデータ)

※規約改定・評価・ミッション・戦略運営の4委員会を兼務

(以下、五十音順)

理事 (組織拡大委員会)	: 麻生重樹 (日本電気株式会社)
理事 (ミッション委員会)	: 池田修一 (株式会社ポジティブ・ラーニング)
理事 (教育国際化委員会)	: 伊藤 衡 (慶応大学大学院)
理事 (教育国際化委員会)	: 井上雅裕 (芝浦工業大学)
理事 (ミッション委員会)	: 岩岡泰夫 (株式会社国際開発センター)
理事 (地域サービス委員会)	: 木南浩司 (株式会社マネジメントソリューションズ)
理事 (組織拡大委員会)	: 斉藤 学 (スカイライト コンサルティング株式会社)
理事 (標準推進委員会)	: 鈴木安而 (PMアソシエイツ株式会社)
理事 (国際連携委員会)	: 武上弥尋 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (標準推進委員会)	: 中嶋秀隆 (プラネット株式会社)
理事 (コミュニティ活性化委員会)	: 福本伸昭 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (財政担当)	: 三嶋良武 (株式会社三菱総合研究所)
理事 (組織拡大委員会)	: 水井悦子 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (コミュニティ活性化委員会/戦略運営委員会)	: 森田公至 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (教育国際化委員会)	: 除村健俊 (芝浦工業大学)
理事 (組織拡大委員会)	: 渡辺哲也 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
監事	: 神庭弘年 (神庭PM研究所)
監事	: 平石謙治 (ビー・ティー・ジー・インタナショナル)
監事	: 渡辺善子 (株式会社日本政策金融公庫)
顧問 (地域サービス委員会)	: 木下雅裕 (ニッセイ情報テクノロジー株式会社)
顧問 (国際連携委員会)	: 杉村宗泰 (日本マイクロソフト株式会社)
顧問 (コミュニティ活性化委員会)	: 高橋正憲 (PMプロ有限会社)

■最新の会員・資格者情報 (2018年7月31日現在)

会員数		資格保有者数								
		PMP [®]		PMI-SP [®]	PMI-RMP [®]	PgMP [®]	PMI-ACP [®]	PfMP [®]	PMI-PBA [®]	CAPM [®]
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
540,038人	4,344人	876,500人	36,430人	4人	8人	6人	45人	3人	8人	116人

■行政スポンサー (2018年9月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

■法人スポンサー 一覧 (106社、順不同、2018年9月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- 株式会社ジェーエムエーシステムズ
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- コンピューターサイエンス株式会社
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフト株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC株式会社
- 株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電気情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社

- 株式会社ワコム
- 株式会社HGST ジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & ADシステムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社HS情報システムズ
- 株式会社アジャイルウェア
- ソフトバンク・テクノロジー株式会社
- 株式会社インテジテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- セブンスカイズ株式会社
- 関電システムソリューションズ株式会社
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- アクシスインターナショナル株式会社
- 株式会社ネットラーニング
- JFEシステムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- 東洋ビジネスエンジニアリング株式会社

■アカデミック・スポンサー 一覧 (42教育機関、登録順、2018年9月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
- 岡山大学 教育研究プロジェクト戦略本部 戦略プログラム支援ユニット (URA)

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 日本支部の部会活動紹介シリーズは、『IT研究会』、『ポートフォリオ／プログラム研究会』、『PMタレントコンピテンシー研究会』、『関西ランチ 運営委員会』の4部会です。
- 2018年7月14日・15日に開催した「PMI日本フォーラム」の報告を掲載しました。今年は、基調・招待講演の全てについてインターネットを介して全国向けに同時中継し180人を超える方々にご利用いただきました。
- 10月13日・14日に迫った「PMI Japan Festa 2018」の概要を紹介しました。日本フォーラムと同様、会場にお越しになれない方は、パソコンやタブレットをご用意の上、是非同時中継システムをご利用ください。また、今回は3つのワークショップを同時並行で開催し、来場いただく方々の選択肢を多くご用意しました。
- 去る7月14日に発刊した「PMI日本支部創立20周年記念誌」はPMI日本支部の創立後20年の歩みと将来の展望をまとめた壮大な書物となりました。その企画段階から編集・制作にあたった事務局の責任者吉田謙一氏にインタビューし、その内容と苦労話を紹介しました。

ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

ニューズレターは、皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。お気軽にPMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI日本支部ニューズレター Vol.76 2018年9月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局
 〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
 TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833
 E-mail：info@pmi-japan.org
 ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)